



いろいろ

# 彩でよみがえるあの夏

## 戦後76年、平和考えるパネル展を開催

◎資料 1: 平和資料室特別展「AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」ポスター

◎資料 2: 夏季平和映画会「この世界の(さらにいくつもの)片隅に」ポスター

◎写真: 市役所別館1階フロア「この世界の片隅に」ミニパネル展の様子

市は、戦争や平和について市民に考えてもらうため、平和資料室特別展「AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」を開催する。戦後76年を迎え、戦争体験者が少なくなる中、親しみやすいカラー化写真という「色彩」をテーマに、戦争について「自分ごと」として感じてもらうことが狙い。市の担当者は「体験者や当時の資料などを綿密に調べあげてカラー化された写真から、当時の人々の暮らしを体感してもらえれば」と期待を込める。平和資料室特別展は7月31日～8月12日、中央図書館で開催。時間は午前9時30分～午後7時(金曜休館 土・日・祝・最終日は午後5時まで)。入場無料。

★平和資料室特別展「AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」は、東京大学学生の庭田杏珠さんと渡邊英徳教授による「記憶の解凍」プロジェクトが著した同名の書籍(光文社新書)から選んだ、戦前から戦後の写真約30点をパネル展示するもの。モノクロ写真をAI(人工知能)技術と戦争体験者との対話・資料などをもとに1枚1枚手作業でカラー化したもので、同書籍の帯には映画「この世界の片隅に」の監督で枚方出身でもある片渕須直さんから「すずさんの時代にたどり着きたいと思っていたら、ここにもタイムマシンを作ろうとする人たちがいました」と推薦文が寄せられている。

★市は特別展と合わせ、7月31日(土)に映画「この世界の(さらにいくつもの)片隅に」を総合文化芸術センター別館(旧メセナひらかた会館)で開催する(定員170人。残席わずか)。平成28年(2016年)に公開され、国内外で高い評価を受けた映画「この世界の片隅に」に250カット以上ものシーンを追加した作品で、戦時中の広島・呉を舞台に、18歳の主人公すずの人生がより深く掘り下げられている。片渕監督は作品について「作中に出てくる建物はほとんど実在したもの。どうしてそこまでやるのかというと、作品自体がタイムマシンみたいな効果をもたらすからです」と語っている。

★市は、2つの夏季平和事業をPRするため、7月14日から市役所別館1階ホールにミニパネル展を開催中。7月下旬までの前半期間は映画「この世界の片隅に」の原画を印刷したパネル約20点が並ぶ。8月12日までの後半期間は平和資料室特別展「AI とカラ

一化した写真でよみがえる戦前・戦争」で展示するカラー化写真とモノクロ写真5組程度を展示予定。中には映画「この世界の片隅に」の冒頭シーンに登場する「濱井理髪館」のモデルとなった親子写真や、片渕監督がツイッターで色彩について助言したという「きのこ雲」の写真も展示される。

#### ▼市役所別館1階フロア「この世界の片隅に」ミニパネル展の様子



<お問い合わせ>

市長公室人権政策室 ☎072-841-1259、ファクス 072-841-1700